

人間文化研究機構国文学研究資料館令和4年度第1回運営会議 議事要旨

- 【日 時】 令和4年6月30日（木） 15:30～17:40
【場 所】 オンライン会議「Zoom」
【出席者】 安藤、入口（議長）、海野、大谷、大山、落合、川平、神作、久富木原、倉員、齋藤、佐々木（副議長）、高田、高埜、張、西村、ヒューイ、藤實、山地、山本（和）、山本（聡）の各委員
【欠席者】 大隅委員
【陪席者】 渡部館長、島崎管理部長、杵山総務課長、進藤財務課長、片岡学術情報課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

続いて、杵山総務課長から、会議の定足数は運営会議委員22名のうち、外国出張による欠席者は0名で、過半数12名以上となり、21名出席しているため定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。

議長に入口委員を、副議長に佐々木委員を選出した。

続いて、本年度より新たな任期となったことから、各委員から自己紹介があった。

【前回（令和4年2月22日）運営会議事要旨確認】

原案のとおり了承された。

入口議長から、本会議の議事要旨について、第4期中期計画の評価指標の一つとして「運営会議の議事要旨については、同会議での承認後に、速やかに公開する」としているため、今回の議事要旨を次回の本会議でご承認をいただいた後に公開させていただくので、ご承知お願いしたい旨の説明があった。

【報告事項】

1 研究教育職員等の人事について （資料2）

入口議長から、議事の進行上、まず報告事項1を取扱う旨の説明があった。

渡部館長から、資料2に基づき、研究教育職員等の人事について、令和4年4月1日付けで2名の特任助教を採用した旨の報告があった。

併せて、令和5年4月1日付けで中古又は中世の韻文を専門とする教授又は准教授1名、IR担当の准教授1名、日本古典文学専門のテニュアトラック助教1名、人文情報学専門の特任准教授1名の計4名の採用を計画しており、特任准教授を除く3名について次回の本会議でご審議いただく予定である旨の報告があった。

続いて、令和4年4月1日付けで着任した研究教育職員等3名から挨拶があった。（4名のうち1名欠席）

【審議事項】

1 人事協議会委員の選出について （資料1）

入口議長から、資料1に基づき、人事協議会委員の選出について、館外委員から倉員委員、佐々木委員を、館内委員から神作委員、海野委員、藤實委員を構成員として人事協議会を組織することとしたい旨の説明があり、審議の結果、了承された。

【報告事項】

2 特任助教の併任について

(資料3)

杵山総務課長から、資料3に基づき、令和4年7月1日付けで人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員（特任助教）が採用され、当館の特任助教として併任し、基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」に携わる旨の報告があった。

3 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書等について

(資料4)

齋藤委員から、資料4に基づき、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書等について、以下のとおり報告があった。

- ・業務実績報告書に関して、人間文化研究機構の自己評価として、ほとんどの項目を「Ⅲ．中期計画を十分に実施している」と評価しており、一部の項目を「Ⅳ．中期計画を上回って実施している」と評価している。
- ・達成状況報告書に関して、当館は4年目終了時評価以降は顕著な変化が無い旨を報告している。

久富木原委員から、自己評価に対する評価を行う機関はどこなのか、また、その評価に対する理由などは示されるのかとの質問があり、齋藤委員から、業務実績報告書は文部科学省へ、達成状況報告書は大学改革支援・学位授与機構へ提出され、それぞれの委員会で評価が行なわれており、評価に対するコメントが付された評価結果が通知される旨の回答があった。

4 大学共同利用機関法人人間文化研究機構第4期中期目標・中期計画について (資料5)

神作委員から、資料5に基づき、大学共同利用機関法人人間文化研究機構第4期中期目標・中期計画について、中期目標が文部科学省から提示され、中期計画が申請のとおり認可されたこと、及び当館に關係する主な中期目標・中期計画及び評価指標の報告があった。

5 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定等について (資料6)

神作委員から、資料6に基づき、第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定等について、当館からは異分野融合共同研究に関する評価指標を提出済みであり、今後、国立大学法人評価委員会において審議が行われ、今年度末を目途に指定・公表が行われると想定される旨の報告があった。

6 古典籍データ駆動研究センターの設置について (資料7)

(資料7)

海野委員から、資料7に基づき、古典籍データ駆動研究センターの設置について、第4期中期計画の達成のため、歴史的典籍NW事業で収集した画像データや当館がこれまでに蓄積してきた研究データなどを、更に研究データとして使いやすくすることを目指す当館の恒常的な組織として古典籍データ駆動研究センターを設置したこと、及び古典籍データ駆動研究センターの令和4年度の主な取組などの報告があった。

7 共同研究等について

(資料8)

神作委員から、資料8に基づき、共同研究等について、外部委員を含む委員会である共同研究委員会において、令和3年度に、第4期に予定している共同研究の全体的な計画を承認いただいており、これに基づき各年度ごとに共同研究を推進していく予定である旨の報告があった。加えて、各共同研究の若手比率を30%以上としていること、及び第4期の共同研究の特徴として、当館所蔵の貴重書に関する課題、近代文学に関する課題、地域資料に関する課題を実施予定であることの報告があった。

山地委員から、機構の広領域連携型基幹研究プロジェクトに記載されている「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」は、報告事項5の意欲的な評価指標と関連しているのかとの質

問があり、神作委員及び海野委員から、広領域連携型基幹研究プロジェクトは、機構からの予算措置で実施するものであり、古典籍データ駆動研究センターにおけるコンテンツ解析からの展開の一環として推進していくものである旨の説明があった。

久富木原委員から、文理融合の異分野融合研究をどのように進めていくのかとの質問があり、神作委員及び山本（和）委員から、日本文学等の研究機関としての国文学・歴史学に関する共同研究はこれまでの当館での実績に基づき推進し、一方、第6期科学技術・イノベーション基本計画などで国の方針とされている異分野融合研究は、機構のプロジェクトや古典籍データ駆動研究センターの共同研究とともに推進していきたい旨の回答があった。

8 令和3年度事業報告について

（資料9）

海野委員から、学術資料事業部の事業について、コロナ禍における閲覧室の運用、日本文学関連資料の調査・収集、アーカイブズ調査・収集などの報告があった。

藤實委員から、国際連携部の事業について、次世代育成に関する取組、日本古典籍研究国際コンソーシアムの活動などの報告があった。

西村委員から、資源活用連携部の事業について、50周年記念事業準備等の広報関係業務、特別展示・企画展示等の展示業務、アーカイブズ・カレッジ等の講座・講演会関係業務などの報告があった。

落合委員から、電子情報部の事業について、新日本古典籍総合データベースシステム一式の第10期情報システムへの移行、GitHubの組織アカウントの取得、情報セキュリティポリシーの改定などの報告があった。

9 令和3年度古典籍共同研究事業センター実績報告について

（資料10）

山本（和）委員から、資料10に基づき、令和3年度古典籍共同研究事業センター実績報告について、研究開発系共同研究等の調査研究活動、画像データの作成及び公開等の研究成果の公開・可視化などの報告があった。

10 令和4年度古典籍共同研究事業センター事業計画について

（資料11）

山本（和）委員から、資料11に基づき、令和4年度古典籍共同研究事業センター事業計画について、共同研究一覧、画像データ作成計画などの報告があった。

11 大学院教育について

（資料12）

齋藤委員から、資料12に基づき、大学院教育について、特別共同利用研究員の受入状況、総合研究大学院大学の学位授与（課程博士）の状況などの報告があった。

12 国文学研究資料館創立50周年記念式典等について

（資料13）

渡部館長から、資料13に基づき、国文学研究資料館創立50周年記念式典等について、式典及び記念講演会が滞りなく挙行されたこと、特別展示を8月末まで開催中であることなどの報告があった。

13 その他

（1）マスタープラン後継「未来の学術振興構想（仮称）」への応募について （資料14）

神作委員から、資料14に基づき、マスタープラン後継「未来の学術振興構想（仮称）」への応募について、応募に向けて検討を進めており、次回の本会議に付議する予定である旨の報告があった。

（2）令和4年度催し物について

（資料15）

入口議長から、資料15に基づき、令和4年度催し物について報告があった。

【当館へのご意見】

高埜委員から、以下の旨の意見があった。

報告事項1で4名の研究教育職員等の採用予定が報告されたが、この中に歴史・アーカイブズ系の者は含まれていなかった。長期的に、歴史・アーカイブズ系の研究教育職員の減少が著しい状況であり、令和5年4月1日付けで歴史・アーカイブズ系の研究教育職員1名の採用を検討していただきたい。また、本会議では、研究教育職員等の採用予定が報告事項となっているが、採用予定は重要事項であり開かれた議論を望みたい。

渡部館長から、長期的な展望で熟慮し総合的に検討した結果、今回の4名が現在の当館において優先順位が高い者と判断したものであり、今後の採用予定はご意見を踏まえた上で総合的に検討していきたい旨の回答があった。

以上